

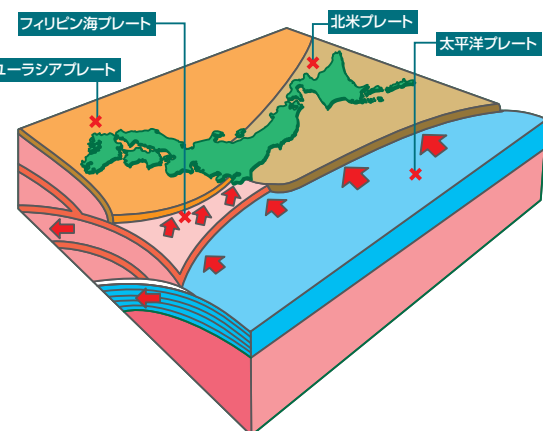
地震

◆地震のしくみ

いつ発生するかわからない地震だからこそ、しくみや特徴など、正しい知識を持つことが必要です。

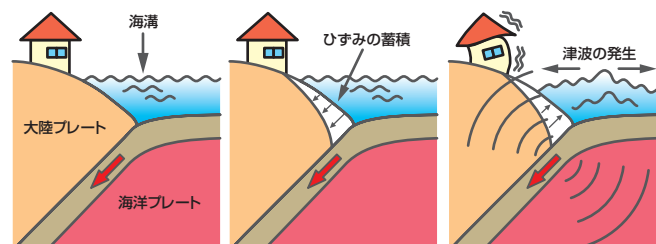
1 なぜ日本には地震が多い？

地球の表面は、キャベツの葉のように10～20枚ほどのプレート(岩盤)に覆われています。日本は、4つのプレート(太平洋プレート、北米プレート、ユーラシアプレート、フィリピン海プレート)が折り重なる地点に位置しているため、地震が多いのです。地震には次の2つのタイプがあります。



1 「海溝型」地震

太平洋沿岸に起こる大地震は、海洋性プレート(太平洋、フィリピン海プレート)が大陸性プレート(北米、ユーラシアプレート)の下へ潜り込もうとする力と、引きずり込まれまいと耐えようとする大陸性プレートの力が限界に達したときに、引きずり込まれた大陸性プレートが跳ね返り発生します。これを海溝型地震といいます。



2 「直下型」地震

内陸あるいは陸地に近い海底のプレートとプレートがぶつかり合い、その力により活断層(約200万年前以降に活動したことがある断層)がずれて起こる地震と、南関東地域の地層のように、複雑に潜り込んでいる海洋性プレートの境界やプレート内での地震断層の発生による地震を、直下型地震といいます。阪神・淡路大震災はこの活断層のずれによって起きた地震でした。活断層による地震は震源が浅いため、地震の規模は小さくても、都市の直下で生じると大きな被害をもたらすことがあります。

2 マグニチュードと震度の違い

地震全体の規模を示す数値が「マグニチュード(M)」で、1つ大きくなるとエネルギーの量は約30倍にもなります。震度は、各地点での地震動の強さを表し、人の感覚や家屋の揺れ方、被害の程度、または地盤の状態などから推定されます。

<p>震度0 無感 地震計にのみ記録され、人体には揺れを感じない。</p>	<p>震度3 弱震 家屋や樹木、器の水などが揺れ、歩行中の少数の人も感じる。</p>	<p>震度5 強震(強) 壁に亀裂が入ったり、重い家具や自動販売機などが倒れる。</p>
<p>震度1 微震 静止している人や、とくに地震に敏感な人が感じる。</p>	<p>震度4 中震 花瓶などが倒れ、寝ている人や歩行中のほとんどの人が揺れを感じる。</p>	<p>震度6 烈震(弱) 窓ガラスや壁のタイルなどが破損し落下する。</p>
<p>震度2 軽震 戸や障子がわずかに揺れ、静止している人の多くが感じる。</p>	<p>震度5 強震(弱) 書籍や食器類などが落ち、瓦がずれたりする。</p>	<p>震度6 烈震(強) 立っていることができなくなり、山崩れや建物の倒壊が起きる。</p>
		<p>震度7 激震 かなりの建物が傾いたり、倒壊する。</p>

◆東海地震の予知に関する情報

東海地震が発生した場合、山梨県内で建物全壊約7,000棟、死者数約370人という甚大な被害が予想され、そのうち甲斐市では建物全壊約30棟が想定されています(平成17年「山梨県東海地震被害想定調査」による)。

1 警戒宣言までの流れ

気象庁などの国の機関が中心となり、観測機器を使って24時間の監視を行っています。観測データに変化があった場合、状況に応じて東海地震に関する情報が発表されますが、予知されずに突然東海地震が発生する可能性も十分ありますので、いつ起きても対応できるように、日頃から備えておくことが大切です。

情報名	情報の発表基準	主な防災対策	情報の解除基準
東海地震 観測情報 [青情報]	東海地震の前兆現象について、直ちに評価できない場合	◇防災対応は特にありません。 ◇国や自治体等では、情報収集連絡体制がとられます。 テレビ・ラジオ等の情報に注意し、平常通り過ごしてください。	◇東海地震発生のおそれなくなったと認められた場合 ◇発生した地震が直ちに東海地震に関連性がないと判断できる場合、安心情報である旨を明記して発表
東海地震 注意情報 [黄情報]	東海地震の前兆現象である可能性が高まったと認められた場合	[防災準備行動開始] ◇東海地震に対処するため、防災の準備がとられます。 ●必要に応じ、児童・生徒の帰宅等の安全確保対策が行われます。 ●救助部隊、救急部隊、消防部隊、医療関係者等の派遣準備が行われます。 ◇気象庁において、東海地震発生につながるかどうかを検討する判定会が開催されます。 市の防災行政無線やテレビ・ラジオ等の情報に十分に注意し、正確な情報を把握してください。	◇東海地震発生のおそれなくなったと認められた場合、その旨を発表
東海地震 予知情報 [赤情報]	東海地震が発生するおそれがあると認められた場合	◇「 警戒宣言 」が発せられます。 ◇地震災害警戒本部が設置されます。 ◇崖崩れの危険地域からの住民避難や交通規制の実施、百貨店等の営業中止などの対策が実施されます。 市の防災行政無線やテレビ・ラジオ等の情報に十分に注意し、あわてずに落ち着いて行動してください。	◇東海地震発生のおそれなくなったと認められた場合、その旨を発表

2 警戒宣言発令後、各機関の対応

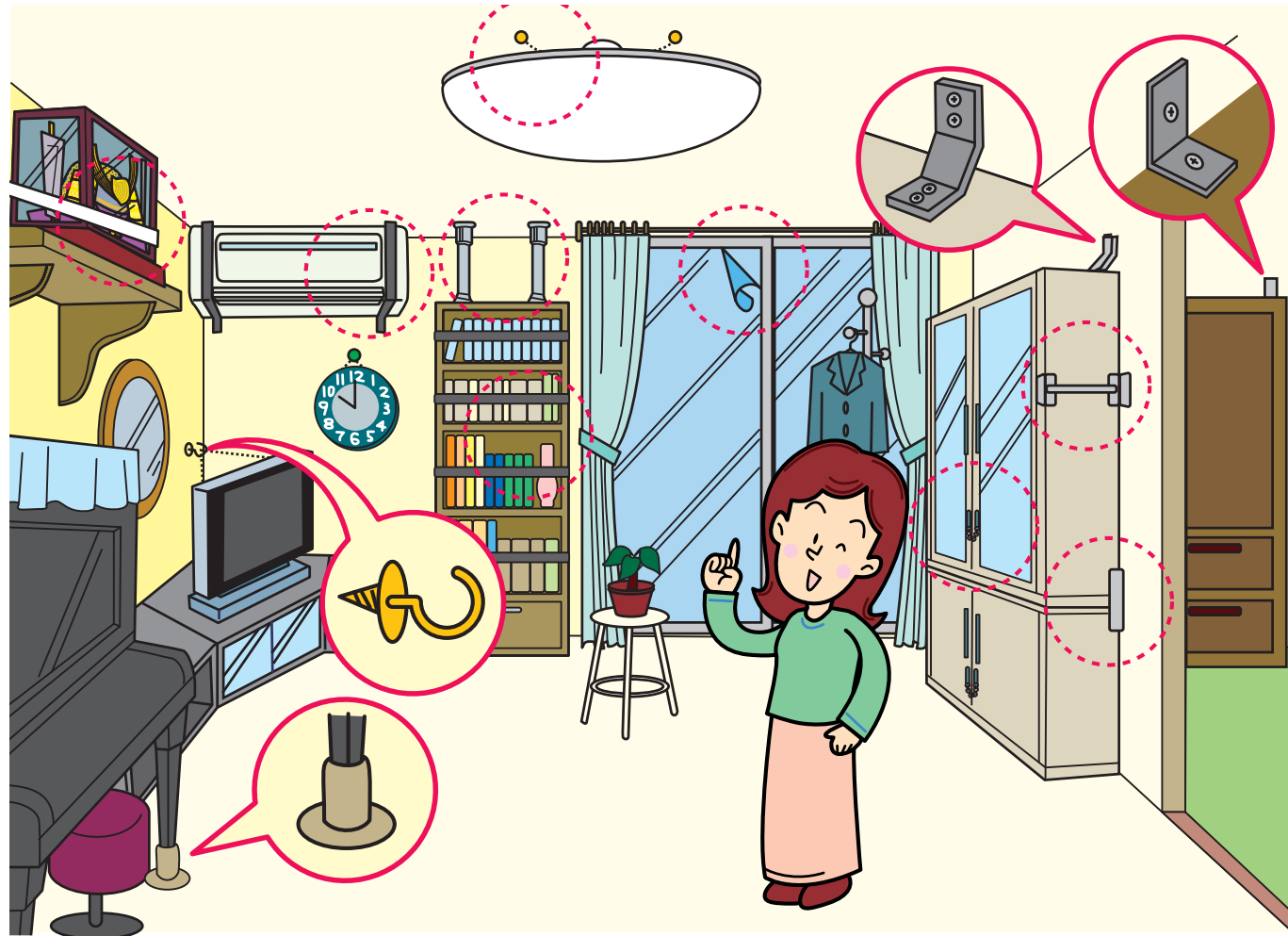
交通機関やライフライン、学校、銀行などでは、それぞれ適切な対応がとられます。住人の皆さんは、テレビやラジオで情報を確認し、火の使用を控えたりガスの元栓を閉めるなど、地震に備えましょう。危険予想地域や耐震性のない建物に住んでいる人は、非常持出品を持って、安全な場所へ避難しましょう。

電気・ガス・水道	供給継続。ガスは、使用に支障のない範囲で減圧して供給
電 話	一般通話の制限。災害用伝言ダイヤル171の利用可
鉄 道 ・ 道 路	強化地域内への進入制限。運行中の列車は、最寄りの駅で停車
バ ス	強化地域内での運行を中止
病 院	耐震性のある病院は、救急業務を除き外来診療中止。耐震性の不十分な病院からの患者移送
コンビニ・小売店舗	耐震性の安全が確認されている店舗では、店舗の判断で営業継続
学校・幼稚園等	児童・生徒は状況に応じて保護者に引き渡し(遠距離者は宣言前から帰宅も)
金 融 機 関	窓口の営業停止。現金自動支払機はあらかじめ定めた店舗で稼働停止

※**強化地域** 東海地震に備えて、特別な防災対策が必要と考えられる地域のこと。
静岡県全域・山梨県(甲斐市では全域が指定されています)・東京都・神奈川県・長野県・岐阜県・愛知県・三重県の一部地域が指定されています。

◆わが家を総点検しよう！

防災対策の第一歩は、まず家の中のチェックから。万が一のために、点検しておきましょう。



家具が倒れたり落ちてきたりしないよう、しっかり固定しましょう

部屋の中は、倒れやすいものや落ちやすいものでいっぱい。とくに、重さのあるものや固くて鋭いものは要注意。一つひとつ念入りにチェックして、安全を確認しておきましょう。

照明器具	コードだけで吊るのではなく、チェーンなどを使って数カ所で固定する。蛍光灯は両端のジョイント部分を耐熱テープで補強する
棚	危険なものは置かないようにし、ガラスの人形ケースなどを置く場合にはしっかりと固定しておく
食器棚	棚は、金具などで壁に固定し、中の食器がすべらないよう、棚板にシートやふきんなどを敷いておく
タンス	金具などで壁に固定し、二段重ねのタンスはつなぎ目も固定する。衣類は重いものを下に入れ、軽いものを上に入れておくことがポイント
本棚	棚は、金具などで壁に固定し、本が落ちてこないようにベルトなどをかけておく。支え棒などで天井に固定することも大切
窓ガラス	飛散防止フィルムを貼っておくとよい
テレビ	落下時にブラウン管が破裂する場合がありますので、なるべく低い位置に置く
エアコン	大きく重いので、専用金具でしっかりと固定しておく
壁かけ時計	チェーンや針金でしっかりと固定しておく
ピアノ	上に危険なものは載せないようにし、足にはすべり止めをつけておく

◆地震が起きたときは？

いざというときにあわてず、焦らず、落ち着いて行動できるよう、これだけは守るようにしましょう。

■家にいるとき

まず、身の安全

ケガをすると、避難や処置が遅れます。まず何よりも、落下物や家具に十分注意してください。



揺れがおさまったら、あわてず火の始末

火元の近くには、燃えやすいものを置かないようにします。



出口を確保

ドアが開かなくなることがあるので、揺れがきたらすばやくドアを開けておきます。



すばやく消火、助けを求める

出火しても、天井に燃え移る前なら大丈夫です。あわてずに消火を。



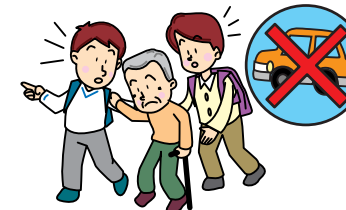
あわてて外に飛び出さない

危険なものが落下してくる可能性があります。飛び出さず、冷静に行動しましょう。



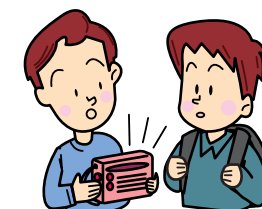
歩いて避難

車での避難は危険であり、救助活動の邪魔になります。避難は徒歩がルールです。



正しい情報をつかむ

間違った情報に惑わされないように、ラジオなどで正しい情報をつかんでください。



■外出中のとき



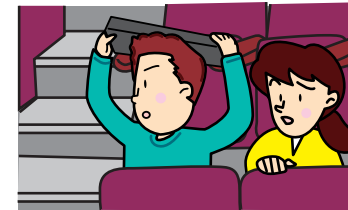
商店街・ビル街

ビルの倒壊やガラスの破片に注意し、安全な場所に避難します。



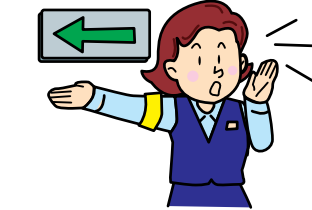
電車の中

座席などにつかまり姿勢を低くします。乗務員の指示に従い、勝手に外に出ないようにしましょう。



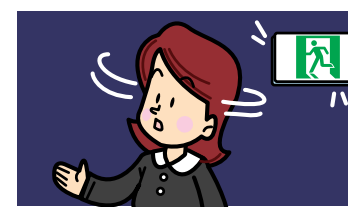
映画館・劇場

頭を保護し、イスの間にしゃがみ込み、係員の指示に従って避難します。



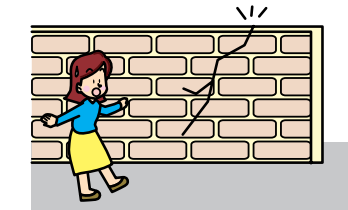
デパート・スーパー

ショーケースなどから離れ、店員に従って避難します。



地下街

パニックに巻き込まれないよう、誘導灯に従って出口を確認します。



住宅街

塀や門柱、自販機、狭い路地から離れ、広い場所へ避難します。



がけや海岸付近

付近の地形を把握し、安全な場所へ避難します。